

はじめに 亀田 行雄

第1章

インプラントパーシャルデンチャー (IARPD) とは

I	インプラントパーシャルデンチャー (IARPD) の臨床的意義	008
	亀田 行雄	
	症例1 1本のインプラントを埋入し遊離端義歯をIARPDとした症例	
	症例2 固定式インプラント補綴からIARPDへ移行した症例	
II	無歯顎患者のインプラントオーバーデンチャーとの違い	016
	亀田 行雄	
	症例1 上下無歯顎の下顎に2本埋入した2-IODの症例<インプラントの役割は維持>	
	症例2 上下無歯顎の下顎に4本埋入したIODの症例<インプラントの役割は支持>	
	症例3 遊離端義歯装着者の臼歯部に1本インプラントを埋入し、IARPDを製作した症例<インプラントの役割は支持>	
	症例4 パーシャルデンチャーにおける義歯床縁の特徴——多数歯欠損症例	
	症例5 パーシャルデンチャーにおける義歯床縁の特徴——中間欠損症例	

第2章

これまでのパーシャルデンチャーを考える

I	パーシャルデンチャーは歯を守るのか、壊すのか	028
	大藤 竜樹	
II	天然歯のオーバーデンチャーに起こりうる問題点とその対策	036
	長濱 優	
III-1	インプラント支台のクラウンを鉤歯とすることの是非について	040
	柄内 秀啓	
III-2	インプラント支台のクラウンを鉤歯とするパーシャルデンチャーの1症例	044
	村上 智	
IV	義歯床が残根周囲歯肉を被覆することの問題点	052
	八代 一貴	

V	パーシャルデンチャーにおける義歯床の大きさは総義歯と同じにすべきか	060
	関 豊成	
VI	コーピングの高さとハイジーンに関連—天然歯とインプラント—	068
	諸隈 正和	

第3章

インプラントパーシャルデンチャーのエビデンスと現在の戦略

I	インプラントパーシャルデンチャーのエビデンス（海外、日本での研究）と現在の戦略	080
	小林 友貴、諸隈 正和、渋谷 哲勇、小林 周央	
II	すれ違い咬合—歩手前をIARPDで対応した症例—	096
	川口 裕之	

第4章

インプラントパーシャルデンチャーの製作技法

	インプラントパーシャルデンチャーの製作技法—天然歯とインプラントと粘膜が混在する環境—	112
	亀田 行雄	

- 症例1 両側遊離端欠損の遠心側に1本ずつインプラントを埋入した症例
- 症例2 ヒーリングアバットメントを加工してドーム型のアタッチメントとした症例
- 症例3 技工にて内冠型のカスタムアタッチメントを製作した症例
- 症例4 前後すれ違い咬合に下顎両側1本ずつのインプラントを埋入した症例
- 症例5 臼歯部咬合支持を喪失し、すれ違い咬合—歩手前の症例
- 症例6 インプラント周囲の義歯床を開放型にした症例
- 症例7 インプラント周囲の義歯床が開放型にできない症例
- 症例8 ブラキシアーの義歯装着者にIARPDで対応した症例

第5章



メンテナンス

天然歯とインプラントさらに義歯が共存する環境でのメンテナンス 142
柿沼 八重子(歯科衛生士)

おわりに 亀田 行雄